

いきいき新聞

11月号

みんなの集いシリーズ 福武教育文化振興財団と橋本財団と ゆんたくする会



10月21日(月)に当センターにて「福武教育文化振興財団と橋本財団とゆんたくする会」(※ゆんたくとは沖繩の方言で「おしゃべり」の意味です。)を開催しました。

参加者は住民自治協議会の地域マネージャーや役員の方、障がい者の団体、NPO法人で活動されている方、子育て支援に取り組みられている方など市内外から9名。「補助金や助成金の勉強会があまりない」「地域課題を解決するための資金調達の勉強会がない」とのお声をもとに、講師に「福武教育文化振興財団」の濱田さんをお招きし、助成金の基礎や申請書のポイントやヒントなどのお話をいただきました。気になったことがあれば、随時参加者から質問を受け付ける形式で、じっくりお話を伺いました。

参加者から「継続して申請できますか?」「使

い道の細かいものは?」「子ども食堂の食材費は?」「講師をお呼びした際の謝礼金や交通費は?」「行政や他の財団から補助金を貰っている場合はもう申請できませんか?」等、助成金を申請する上での具体的な質問もみなさん積極的にいただきました。行政や他の財団からの補助金がついていないと、審査で認められたちゃんとした団体であるとの評価にもつながるそうです。

財団にとって助成金は、目的を実現するための代わりには事業を取り組んでもらうパートナーであること、そのために先駆的な取り組みに期待していること、助成財団にも「地域づくり」や「人づくり」などのミッションがあること、助成の目的を達成させるために、目的をしっかりと決めて、1つずつ活動の積み上げを継続して行っていくというイメージもご説明いただきました。また、申請書を提出する際の心がけたポイント、事業に期待する項目や定量的条件の配慮の詳しいお話もありました。借入金の返済に使用することはできないことや、活動内容が不透明な場合は審査が難しいとお話もありました。申請書を書いていく上で特に

大切なポイントは、目的が明確に分かること、現状からの解決策を中心に書き、その活動内容によって何がかわるのかや、字は読みやすいように大きく書き、箇条書きでも分るので誰が読んでも分かるように書くこと、など。まずは「助成財団」をよく知って欲しい、要項をしっかり読んで頂き、不明な点はいつでもご相談くださいとのことでした。会の終わりに個別相談タイムもあり、みなさん熱心に講師の方々とお話されていました。

「ゆんたくする会」は講師の方と参加者の距離が近く、その時の疑問をその場で質問し解決できるスタイルで行っており、今回も良い会を開催することができました。引き続き地域のお声をもとにした勉強会を開催していきます。ご興味のある方は当センターまでお問い合わせください!

津山市地域づくりサポートセンター
津山市大田920
リージョンセンター内
電話27-0600



お知らせ

■センターからお知らせ
みんなで学ぶシリーズ
事業計画づくりに関する勉強会「事業計画づくり講座」課題解決のための道しるべ【初級編】を開催します。

○事業計画づくりの基礎やポイントなど、センターを管理する「みんなの集落研究所」の主任研究員の阿部典子が相談に乗ります。お茶を飲みながらゆつくりお話しませんか?
日時:12月12日(木)
13時30分~15時
場所:当センター
参加費:おひとり500円

■いなか体験 餅つき編
○つきたてのお餅が食べ放題です!
餅つきの前には同時開催のふれあいマーケットもあります。知和の採れた野菜を販売します。
日時:12月8日(日)
10時~(ふれあいマーケットは8時~9時)
場所:知和公民館
参加料:大人1000円、小学生500円(幼児無料) 餅食べ放題
申し込み:☎090-8996-4503



ホームページ
QRコード



地域の取り組みに 高校生と参加しました!

津山東高校では「行学」という授業があり、地域コーディネーターとしてスタッフが入っています。主な役割は、地域活動団体や行政・NPO法人など地域の関係者と学校を繋ぐことです。また、実際に授業に入り、外へ出る時の下準備や心構え、フィールドワークの調整、振り返り、提案実践までのサポートも行います。身近なテーマで課題発見・解決型学習の実践をします。実際に地域へ向き、その地域や人の「魅力」や社会の「課題」を学び、そして自分たち高校生に何ができるのかという「提案」を考えています。その「行学」の授業の際に紹介した、津山市加茂町知和のイベントに行きたいと言ってくれた、津山東高校の生徒4名と一緒に、9月15日(日)に津山市加茂町



知和のスマイル田んぼで開催された「いなか体験稲刈り編」に参加しました。高校生たちは初めての鎌を使つての稲刈りでしたが、田んぼにいた虫にビックリしながらも、地域の人たちに教わりながらコツをつかんでいき、徐々に上達していき、稲を刈った後は、稲を束にして結び、はぜ干しの作業を教わりながら行い、稲刈り体験が終わったあとは公民館に移動して、地域のお母さん方が用意してくださった昼食を楽しくお話ししながら参加者全員でいただきました。一生懸命に取り組んだ良い表情で、終わりに際して「とても楽しかった!また知和に行きたい」との声があり、地域へ出ることに魅力や楽しさを感じてくれたようです。



刈ったあとのはずかし

その後、10月19日(土)に津山市加茂町知和で「段ボール窯ピザ焼き体験」を開催しました。高校生が9月に開催された「いなか体験稲刈り編」に参加し、稲刈りで優しく教えてくださった方や昼食を用意してくださった方にお礼をしたい!との想いで、高校生自ら企画・準備し、このイベントが実現しました。

当日は、男性陣が段ボールを組み立ててアルミ箔を貼り、段ボールピザ窯を作成している間に、公民館の中では、高校生と地域のお母さん方子どもたちと一緒にピザ作りが行われ、知和で採れた野菜をたっぷり使った、知和ならではのピザが完成し、完成した手作りの段ボールピザ窯で、焼き加減も完璧に仕上がりました。地域内の子どもから高齢者までの三世代がつながるきっかけづくりになり、これからも継続的に地域にお邪魔する予定です。



段ボール製の手作りピザ窯